

# JICA-CM4TIP 通信

No.8/2015.12.9

- ラオス出張
  - チャンパサック県出張
  - NGO の活動
  - ボケオ県出張
- 漁業取引被害者の話
- CM4TIP ロゴが完成

## タイ・メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクト

- ◇ タイおよびメコン地域において人身取引被害者に対する支援対策が効果的に行われるために、JICA では被害者保護・自立支援に関わる多分野協働チーム (MDT) の能力強化と、支援能力向上に協力してきました。
- ◇ 当プロジェクトは 2015 年 4 月から 4 年間の予定で、人身取引被害者の生活再建支援のため、ケースマネージャー (CM) 等の能力向上や被害者のエンパワメント、周辺国との協働を目指す活動を実施します。

CM4TIP : Case Management for Trafficking in Persons の意味。  
詳細は HP ( <http://www.jica.go.jp/project/thailand/016/index.html> ) をご覧ください。

## ラオス(チャンパサック県・ボケオ県)出張

3 か月前から計画していたチャンパサック県での人身取引に関する研修は、チャンパサック県政府要職の人事異動により直前に延期になり、研修実施の遅れを懸念し調整機関の LFTU 議長に挨拶に行きました。  
また、ボケオ県の MDT\*1 が行った人身取引に関する予防・啓発活動のための研修と 2 村での活動実施後のミーティングにオブザーバーとして参加しました。



### チャンパサック県出張

チャンパサック県でのプロジェクト活動の調整機関であるラオス労働組合連盟 (Lao Federation of Trade Union: LFTU) はタイに出稼ぎに行く労働者に対して、労働者としての権利や法律について啓発を行い、労働者が不当な目に遭った場合には法的支援をする役割を担っています。

タイのウボンラチャタニ県と国境を接するチャンパサック県のバンタオの入国管理事務所のすぐ近くに、コンテナが二つあるのですが、それらのコンテナは健康診断室や相談室になっており、タイに働きに行ったものの、警察に捕まって強制送還された人々が、気軽に相談できるような体制になっています。そして、この国境健康相談所を運営管理しているのが、チャンパサック県の LFTU です。



LFTU が運営管理しているバンタオ国境地点の健康相談室 (コンテナハウスの内部)。

今回は、チャンパサック県 LFTU の長にプロジェクトの概要、チャンパサックで協力をお願いしたい活動内容について説明しました。「ラオスは JICA から多くの支援を受けていて大変感謝しています。法務事務所から LFTU の長に就いたばかりですが、このように直接訪問し、プロジェクトの説明をしてもらえると協力がし易くなるし、プロジェクトの目的もよく理解できたので、協力したい」と力強い言葉を頂きました。

### NGO の活動

LFTU 訪問後、ワールドコンサーンという NGO を訪問しました。ワールドコンサーンはアメリカに本部を置く NGO で、チャンパサック県においては、主に青少年教育、母子保健、貧困削減、HIV/AIDS の撲滅に注力しています。人身取引に関しては青少年教育の中で、HIV/AIDS、薬物と人身取引を含んだ啓発パフォーマンスを行っています。「チャンパサック県の若者たちは国境を渡ってタイで仕事を探すケースが多く、タイに働きに出て、労働被害に遭い、精神がおかしくなった村民がいるなどの情報が入ってくる。今までどのように対応すればいいのかわか

らなかったので、なんにもできなかった。JICA が政府機関と NGO 共同で人身取引に関する研修を開催してくれるのはありがたい」と言っていました。

チャンパサック県には Village Focus International (VFI) という NGO が 2000 年から人身取引被害者の救助にあたっていますが、その存在も知らないということに驚くと共に、NGO がそれぞれ別々に活動し、ほとんど連携がないことが垣間見え、今後プロジェクトを実施していく上での留意点が分かりました。



ワールドコンサーンの事務所でスタッフと

### ボケオ県出張

もう一つのラオスの活動地ボケオ県では、パートナー NGO の AAT がチャンパサック県同様に LFTU を調整機関として、労働社会福祉省、入国管理局、人身取引対策警察、女性連合、青年連合、文化情報省等からなる MDT と人身取引対策活動を行っています。(次頁へ)

注 \*1: MDT とは人身取引被害者保護・自立支援にかかわる多分野協働チーム (Multi Disciplinary Team)

# CM4TIP のロゴができました！

- 希望の種を植え、芽を出す：人身取引被害者の人生の再建支援
- 手をつなぎ協力：日本とタイ、当事者と支援者、メコン地域各国
- CM4TIP：Case Management for Trafficking in Persons
- 4カラー：メコン地域（CLMV）との協力を4色で表した。



© 2015 JICA-CM4TIP

(前頁から)

10月20-21日に国境タイ側のチェンライ県チェンコン郡においてAATがボケオMDTの研修を行いました。AATスタッフから人身取引の定義や安全な出稼ぎについての知識を得て、効果的な予防・啓発活動のためのメディア・トレーニングが実施されました。

11月25、26日にボケオ県トンブン郡の2村で180人と150人の村人を集めての予防・啓発活動が行われました。そのレビューと2016年のMDTの計画を話し合う会議が27日に行われ出席しました。MDTの関係部局が参加しての初の活動としては成功したと皆が感じて、全員が意見を述べていました。最初のチェンライでのワークショップやチェンコンでの研修からは考えられないほど積極的で、2016年には2郡4村で同様の予防啓発活動を決めました。

ボケオ県での活動については、かなり困難を感じていましたが、少し光りが見えたようです。MDT強化研修で協力したいと考えています。

## 漁業人身取引被害者の話

11月25日、バンコクから30<sup>キロ</sup>離れたサムットサーコーン県のNGOの労働者の権利促進センター(Labour Rights Promotion Network: LPN)で漁業人身取引被害者の声を聞いてきました。

サムットサーコーン県は、タイの漁業、エビ、魚加工製品の中心地で、1990年以降、沢山のミャンマー人が働いています。タイの水産業においての人身取引被害は悪名高く、近年、タイの男性シェルターにはタイの漁船で被害にあったミャンマー人が毎年保護されています。

特に2014年末からインドネシアのアンボン島やベンジナ島に何千もの人身取引被害者がいるとニュースになっていたのですが、この事件もLPNに現地の漁業労働者から数百件のSOS電話があつて発覚したのです。

今回、LPNの事務所で、2人のタイ人の男性人身取引被害者から、漁船での一日20時間の労働状況、長く働けるためのドラッグが入った水を労働の合間に飲まされていたこと、辛くて自殺してしまう労働者もいたこと、22年間も奴隷状態にいた人がいたこと、などの話を聞きました。また、雇用主が働けない労働者に対して使う鞭も見せてもらいました。

話をしてくれた被害者は、フアランポン駅\*2でブローカーに飲み物に睡眠薬を入れられ、気が付いたら漁船の中にいたそうです。

2015年8月までに、インドネシアの島々から1600人のタイ人、600人のミャンマー人、65人のカンボジア人、14人のラオス人がそれぞれの国に帰還したとのこと。LPNの調査によると、帰還した1600人のタイ人労働者の中で人身取引被害者として認定されたのは40人程度で、ここでも認定作業がいかに不透明で課題が大きいかが露呈されました。

## CM4TIP プロジェクトのロゴについて

4月から構想を練りはじめ、ついにプロジェクトのロゴが完成しました。今回ロゴのデザインをお願いした飯塚紗彩さんは、大学院在学中に海外青年協力隊(JOCV)に参加し、2010年より2年3ヶ月間東北タイの教育科学センターにてアートを使った環境教育プログラムを実施し、卒業後2013年より再びJOCV短期ボランティアとして同じく東北タイの人身取引や様々な問題に対応する女性・子ども・家族のための短期シェルターにて活動しました。

ロゴの意味は標記の通りですが、作者の思いは「いろいろな立場の人たちがまーるく繋がったらいいいという想いと、皆で手を取り合って新しい芽を出したいという想いに、対象国の旗のカラーを入れました。新しい芽は、人から愛が生まれるイメージです」。

\*2:バンコクの駅で、地方への長距離列車の発着駅。東京でいえば、上野駅のような駅。



プロジェクト・アシスタントのゴルフさんをモデルにしたメディア・トレーニング



厳しい漁船での労働は、騙されてる。写真提供(LP.N)